
武偵高deミッション！

ほむら

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

武偵高deミッション！

【Nコード】

N6561X

【作者名】

ほむら

【あらすじ】

とあるところに、少女がいた。

少女の名前はルビ。

ルビは小6でありながらもインターンで武偵高に入る。

そしてこの作者の作品は駄文です。というか駄文しかありません。

それでもいい人はどうぞ。しかもこれは気まぐれで書かれています。なのでいつ連載が止まるかわかりません。しかも作者はこれがデビュー作となるものです。期待はしないでください。ここ重要！

期待はしないでください。期待はしないでください。

重要なことなので二回言います (r y

(1) その目に宿る意思(前書き)

これはフィクション！

存在しないよ！！

なお、ホラー苦手な人はやめとこうね

(1) その目に宿る意思

とある晴れた日のこと。

高層ビルの屋上に一人の少女が立っていた。

少女の名前は新藤瑠美。
しんとうるび

(以後瑠美はルビと書きます)

彼女はある目的を果たす為に長野から東京に来た。

そして武偵高にインターンで入るのだ。

* * *

今日は武偵高に入る日だ。

やっぱり、インターンではいるため、緊張はしてしまう。

そして私の最大の悩みは勉強。

もともと私は勉強が得意ではないし、インターンではいるため、

勉強が小6で止まっている。

なので高校の普通科授業ではついていけないだろう。

(そこは自宅でやるとかしかないな・・・。)

先生の方も知しているので、授業で当てられる事はないだろう。

（がんばるっきゃない・・・！）

と、こんな事を考えてる間に話は進んでたらしく、

先生が「入ってきて」、といったのが聞こえた。

緊張を表に出さずに教卓までたどり着く。

「じゃあ、自己紹介どうぞ？あ、最初に言っておくわね。

この子はインターンだということをわすれずに、ね？」

先生がそういうと周りがざわめいた。

何を言ってるかは分からないが、悪口ではなさそうなので、ほっとした。

「しっ、新藤瑠美です！ええと、いっぱい分かんない事も有りますけど、よろしくお願いします！」

ペコッ

とりあえず、第一印象は良い物になったらしい。

そのまま授業は進み、二時休みになった。

*

*

*

「はあ・・・っ、疲れたあ。」

二時休みは質問攻めだった。息をつく時間も与えられないほど。

いまは強襲科塔^{アサルト}で練習中。

（あいつらを潰せる様に、頑張らなきゃ・・・！）

ぎりぎりど歯軋りをして、的を狙う目には集中の色、憎しみの色が宿る。

蘭豹「今日の授業は終わりやー！死にたくないやつはとっと帰れやー！」

こわっ！強襲科こわっ！！なに此处！！？

まあ、死にたくないで片付けて、帰ろうと門までいく。

「あ、ルビ！おそいわよーもっっ！」

するとそこには強襲科Sランクの神崎・H・アリアと

探偵科Eランクの遠山キンジがいた。^{インクスタ}

ちなみに私は強襲科Sランクである。

アリアはアニメ声をあげてててっ、とこちらに走ってくる。

「おそいって・・・え？」

私、何かアリアと約束したっけ？

「何言ってるの？当たり前でしょ！一緒に帰るから、待ってたのよ？」

アリアはそう言って、かわいらしく頬をぶくう、とふくらませる。

「え・・・っ！待っててくれたの・・・ありがとっ！」

ちなみにアリアとは二時休みと昼休みで超仲良くなっている。

「さ、帰るわよ！ホラッ、キンジもぼうつとしてない！」

・・・・・・あれ？

「アリア、そっちは男子寮じゃ・・・？」

私がそういつても、アリアはどうかしたの、みたいな顔で見てくるだけ。

「？ふつうでしょ？」

「いやいや、少なくとも普通ではない気がするよ？それに、キンジはともかく、

私たちは女子りよ」「何言ってるの。先生から聞かなかった？ルビはキンジと同室よ？」・・・え？」

うつそーん？（、／）／

「嘘でしょ・・・?」

「本当よ?先生曰く『女子寮もう開いてないからあゝ』らしい」

「よし、先生を今度潰そう」

「ちょ!?!ルビ、何爽やかに言ってるの!?!」

「アリアの発言のせいだ」

「~~~~~っ!ルビ!とりあえず今日は帰るわよっ!あたしもいるから!」

「え?ほんと?じゃあ・・・いいかな・・・?」

「「いいんだ・・・。」」

え?アリアがいるなら大丈夫だと思うし・・・疑問はどこにあるんだろ?

「じゃ、帰ろっか。」

「うん!」

「・・・」

という事で一日目、終了。部屋に帰ってからのことは次回!!--である!!--(作者の叫び)

オリキャラ紹介（前書き）

最近思うこと。

「読者がいないのに頑張る必要はあるのか」

悲しきことですね！！（泣）

オリキャラ紹介

実は2話もあつたんですが、どこがどうなったのか、
消えてしまったというか1話が載っちゃって同じ話が2個できちゃ
ったからというわけで

今日は小説にはほとんどあるキャラ紹介にしたいと思います〜！

名前

しんどう るび
新藤 瑠美

あだ名（呼び名？）

ルビ、ルビちゃん、るびるん（ 理子特有）

身長

145？

容姿

東方Projectの、ルミアの髪が銀色で目が紫色な感じ。
(ルミア知らない方は検索へどうぞ！)

性格

困った人を見かけるとすぐに助けに行こうとする。

他人のために自分を犠牲にする。

仲間を傷つける奴には容赦はしない。

趣味は読書とかの割とおとなしめな物。

でも普段溜め込む分、発散すると物凄い戦闘狂になるw

嫌いな食べ物はキノコと貝

他人事には敏感、自分のことには鈍感である。

秘密

実は○○。

けど普段は隠している。

できれば隠し通す気。

武偵ランク

Sランク。

アリアと同等かそれ以上。

秘密のOOを開放するとSやRなんて雑魚のように感じるほど強くなる。

(つまりはチート)

オリキャラ紹介（後書き）

〇〇を隠してすみません！

のちわかると思っんで本当にすみません><

知ったら驚愕ってやつですね！！

面倒くさいんで2話でバラしますww

それでは2話目もよろしく！！

(2) ヒルダとかがブラドいるんだもん、いてもいいよね。(前書き)

作者は・・・文才がほしい。

あああああああああああああ！！！！！

冬休みがおわるううううううう！！！！！！

この世界はいつだって理不尽だ・・・！！

(2) ヒルダとかがブラドいるんだもん、いてもいいよね。

あのとキンジ兼私（と何故かアリアもいる）の部屋にいたんだが。

ついたん……だけ……ど。

「……………（。・。）」

「……………（怒）」

『アアアアアウウ……………ウ？』

そこには？化け物？がいた。

（アリア視点）

私はルビを迎えた後、一緒に部屋へ行った。

「そういえば、ルビの荷物って結構多いわね。」

「う、うん。ごめんね？手伝ってもらっちゃって……」

「なに。気にするな。これは俺たちが好きでやっている事だからな。だろアリア？」

「もちろんよ！ー！」

「あ、こじ?」

「そうよ、ハイ、コレ、カードキーね。」

「ヲイチよつと待てアリア?何でお前が俺の部屋のカードキーを平然と持つてるんだ?」

「さあ、いきましょ?重いから早く降ろしたいのよお。」

「無視かよ!!?」

「くすくす・・・二人とも、仲いいね?」

「なっ!／／ち、ちが 【ドゴオオオンッ!】 なっ、何!?」

話している最中に爆発音のようなものが聞こえた。しかも、キンジの部屋から。

「!??な、何事?」

「とにかくやばそうだ。 部屋が。」

部屋なのね。まあ私もいろいろ置いてるし、困るわね。

『ウアアアアアー……。ウ……。アア?』

「ひぐうッ!!? な、何よ今のうめき声!? B級ホラー!?」

ななななんなのよおっ!? ゾンビいつ!? ふえええ……。!

そんな私とは対照的にルビは額の所にくつきり血管が浮き上がって口元をヒクヒクさせている。

「あんの……。出来損ないめエ……。!! ふざけた事を、後悔させてヤル……。!」

正直に言う。

ルビは怒らせてはいけません!! ルビは怒らせてはいけません!! 大事なことなので2回言いました!

ものすごく……。怖いですから。

そんなことを思っていると、ルビが「必ず直しますので。……。本当スミマセンッ!」といって、ドアをガチャッと開け、入っていた。その後には私たちは続いて歩く。

「それが嫌ならとつとつとの姿に戻って部屋を直せ!」

『はいいいっ!』

「………なんじゃこりゃあっ!?!」

化け物……ゾンビを従わせてるルビにびっくりなアタシとキンジ
なのだった。

(2) ヒルダとかがブラドいるんだもん、いてもいいよね。(後書き)

あああああああつ!?

の秘密ここですつもりだったのに!?

なんてことだ・・・orz

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6561x/>

武偵高deミッション！

2012年1月8日18時23分発行